

# 新しい「知能社会」への二つの トランジションを乗り越える

## 2040年をどのよう に展望するか

**東原** 今年のダボス会議での主な議題は「信頼の構築」でした。現代のGゼロ社会においては、国際秩序への懸念が生じています。各国政府に対する信頼はますます低下し、地政学的なリスクが増しているといえるでしょう。例えば、ロシアによるウクライナ侵略や緊迫するガザ情勢、台湾海峡や南シナ海での中国の動向などが挙げられます。こうした背景を踏まえて、2040年の展望を聞かせて下さい。

国際社会の分断は悪化するのでしょうか。それとも国連やWTOの改革を行うことでグローバルガバナンスを取り戻せるでしょうか。

### 痛みを伴う世界規模の トランジションと向き合う

シオンです。世界は「工業社会」から「知能社会」へと変遷しようとしています。似たような変化は過去にもありました。農業の時代から工業の時代へ移行した時です。そして現在は知能の時代へと変わろうとしています。大きな変化だと思っています。先進国と新興国、つまりグローバルサウスとの関係において、経済構造が世界規模で変化しました。ただし、このような変化について、私は楽観視しています。長い目で見ると人工知能などの技術により、多くの問題に対処できるはずだからです。

第2は、地政学的なトランジションだと思います。以前は、世界は善意に基づく一つのパワーシステムで構成されていましたが、完全に多次元のシステムに変わってきており、その結果、対立が生まれています。考え方も価値観や信条も、まったく異なるからです。そのため、今から数年、おそらく5年間ほどはそうした対立が目立つことになるでしょう。

第3のトランジションは、次世代の人々のために、この地球を守るためのグリーン・トランスフォーメーション(GX)です。また、人口問題にも対処すべきですし、健康・衛生面の課題もあるでしょう。そのほかにも様々な課題があります。世界各国の政府の多く

シウワブ 2040年の展望についてですが、私は楽観視しています。ただし、今後5年間は非常に困難な状況が続くでしょう。いくつかの世界規模のトランジションが同時に起きることで、様々な異なる状況と向き合う必要があるからです。トランジションは常に痛みを伴います。第1に、テクノロジーに関するトランジ



は過剰債務を抱え、新しく画期的な計画や行動に対して投資するという手段を持っていません。例えば、エネルギー・トランジションのために必要な対策を取れないのです。

### 短期的には困難でも 長期的には楽観視できる

私の最大の懸念は、人々が将来に不安を抱えているということです。社会はどんどんと複雑になり、課題が山積しているため、人々は恐れを抱いています。人は不安になると悲観的になるものです。悲観的になると自己中心的になり、国家主義的になっていきます。今から5年の間にこうした問題

世界経済フォーラム創設者・会長  
クラウス・シュワブ

経団連副会長・夏季フォーラム2024議長  
日立製作所会長

東原敏昭

ひがしはら としあき

### Profile

#### クラウス・シュワブ

スイス連邦工科大学(チューリヒ校)、フリブール大学(スイス・フリブール)、ハーバード大学卒業、機械工学、経済学博士。1972年から2003年まで、ジュネーブ大学経済学部教授。

1971年に非営利の財団として、世界経済を改善するため、ビジネス、政治、アカデミア、その他の社会におけるリーダーたちが連携するプラットフォームとしての、世界経済フォーラムを設立。1998年には妻であるヒルデ・シュワブとともにソーシャル・アントレプレナー・シュワブ財団を設立。世界有数の社会起業家によって編み出されたモデルを推進し、イノベーションをサポートしている。2004年ヤング・グローバル・リーダーズのコミュニティを立ち上げ、2011年には、グローバル・シェパードズのコミュニティを設立。その他、数々の名誉博士号を持ち、名誉教授を務める。

起業家精神にのっつた世界経済、世界の状況の改善に取り組む数々のイニシアティブが様々な地域で評価され、様々な国および国際的な組織から、数々の栄誉賞等を受けている

に対処すべきであり、必要不可欠な期間だといえます。

しかし、長いスパンでは希望が持てると感じています。それは、われわれは同じ人類だという意識が高まっているからです。今、世界が直面している様々な問題は、単独の国家レベルでは解決できないと誰もが気づき始めています。国際的な協力体制が必要であり、その体制を効果的に確立するには、国際機関のあり方を見直していくことが欠かせません。国連が新たなパワーシステムを反映し、それをしっかりと樹立させる必要があると思います。また、ブレトン・ウッズ体制のもとで生まれた仕組みも見直すべきです。WTOも古い世界観から脱却しなければなりません。「知能社会」と呼ばれる新しい次元へと移行する必要があると思います。短期的には困難でも、長期的には楽観視できると思います。

### 日本が果たすべき役割

**東原** それでは、今の情勢における日本の役割は何でしょうか。地政学的な危機を自ら分断された世界において、日本への期待は増えています。サステイナブルな未来世界を創造していくための、日本と日本国民の役割は何だと思えますか。



## 未来を創造するうえで 手本となり得る日本

シュワブ 未来を創造するうえで日本は手本になれるでしょう。なぜなら島国でありながら国際社会に溶け込んでいるからです。古い「工業社会」から新しい「知能社会」へのトランジションにおいても、日本はリーダーとなることができるはずで、改革に関しては、日本は過去にも能力を発揮しています。しかし、そのためには、さらなる努力が必要です。特に起業家精神の支援が不可欠だと思います。それは既存の産業の価値やレベルを引き上げることにつながります。また日本企業にとって非常に重要なことは、国際的な経済活動を拡充することでしょう。

次に政治的な側面もお話してみましょ

う。日本は新興国とその他の国々との架け橋になり得ます。とはいえ、これは日本にとって難しい挑戦となるかもしれません。世界のあらゆる国々に手を差し伸べる一方で、民主主義のもとでの価値観から離れるわけにはいかないからです。つまり、一方では世界各国とつながって、良い関係性を築いていくことが重要だといえるでしょう。その一方で、民主主義という自分たちの価値観を守っていくことも必要です。日本は脱炭素社会に向けたGXでも主導的立場に立てると思います。エネルギーに関連する課題だけではなく、その他の課題、例えば、サーキュラーエコノミーや生物多様性などに関する議論も主導できます。このような点で、日本は世界がなすべきことを示す、手本になり得るのです。

社会的な側面をみると、日本は最速で高齢化が進んでいる国だといえます。高齢化は日本だけでなく世界的な問題です。だからこそ、日本が率先して必要となる社会的な支援制度を確立し、生涯教育、スキルアップ、リスキリングを推進してほしいのです。そうすることで高齢者が長く社会で働ける場が生まれていくでしょう。日本が労働力不足の問題に直面しているのは事実です。さらに、日本は男女平等をもっと推進することが必要です。女性の労働力をより強固

なかたちで社会が受け入れることによって、高齢化社会が目指すべき良い例を示すことができます。

最後に付け加えておきたいのは、日本には非常にしっかりした文化がある、ということについてです。私は日本文化の崇拝者です。日本ならば自国文化やアイデンティティを育みながらも、地球市民たり得ることを示せるでしょう。他国の文化を尊重し、うまく共生する術を見つける手本となると思います。自国の文化と世界の文化の両方のアイデンティティを共生させていくことを期待しています。

**東原** 本日のインタビューを参考に、夏季フォーラムでは有意義な議論ができると確信しています。お忙しい中、貴重なお話をありがとうございます。

(2024年7月1日 経団連会館にて)

